

## 組織目標評価報告書（令和2年度）

部局名： 全学教育・学生支援機構

部局長名： 佐野 寛

| 目 標   |   | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組<br>(部局での検証とそれに対する取組)  |
|---|---|---|
| ①教育領域   | 目標に関連する<br>年度計画の番号  | 教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組  |
| ※教育領域に関する目標についてご記入ください。   |   |   |
| ②研究領域   | 目標に関連する<br>年度計画の番号  | 研究領域の目標の達成状況  |
| ※研究領域に関する目標についてご記入ください。   |   |   |
| ③社会貢献(診療を含む)領域  | 目標に関連する<br>年度計画の番号  | 社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況   |
| ※社会貢献(診療を含む)領域に関する目標についてご記入ください。  |   |   |
| ④管理運営領域   | 目標に関連する<br>年度計画の番号  | 管理運営領域の目標の達成状況  |
| 全学教育・学生支援機構における部門の整備・強化と数理・データサイエンスに係る部門の設置を行い、機構と部局との連携を推進する。  |   | 全学教育・学生支援機構に、オンライン教育の戦略立案、教材開発支援及びオンライン授業の実施支援のためのEdTechサポートオフィスを令和2年9月に設置し、オンライン教育のための実施支援体制を整えた。また、高大接続・学生支援センターアドミッション部門にIB入試・教育を推進するためのIB推進室を令和3年4月に設置することを決定とした。なお、数理・データサイエンスについては、令和2年度は、引き続き各学部等から選出された教員によるタスクフォースでカリキュラム編成及び授業を実施し、体制については、今後のDX推進体制に併せて検討することとした。  |
| ⑤センター・機構等業務   | 目標に関連する<br>年度計画の番号  | 管理運営領域の目標の達成状況  |
| ①文理融合型教育を推進するために、数理・データサイエンス教育の全学展開を実施する。<br>②教養教育の検証・見直しを進めるとともに、令和3年度からの50分授業4学期制への移行が円滑に運用できる体制を整備する。<br>③学修成果の可視化が可能な新たなシステムを導入し、可視化の具体化を図る。<br>④大学院について、学位プログラム導入の検討を開始する。<br>⑤CTEを中心に教育能力開発等の研修を企画・実施するとともに、ICTを活用した教育手法の導入等を支援する。<br>⑥教学IRを推進し、教育の内部質保証を図る。<br>⑦学生のライフスキルやコミュニケーション能力向上を目的とした授業を新たに開講し、より幅広い学生に授業を通して大学生生活適応に向けた予防的支援を行う。<br>⑧令和2年度から新たに導入された高等教育の修学支援制度の円滑な運用を行う。<br>⑨行政や経済団体と協力し、留学生に対する就職支援の充実を図る。<br>⑩大学入学共通テストの導入に伴う入学選抜方法の変更について、高等学校教員及び受験者等に十分な周知を行い、入学選抜を着実に実施する。<br>⑪学力の3番目の要素の評価に関し、調査書の活用方法について学内教員及び高等学校教員に十分な周知を行い、入学選抜を着実に実施する。<br>⑫入学定員確保の観点から、廃止も視野に入れた各選抜区分の適正な募集人員の見直しを各部局と連携しながら進める。 | (1-1)<br>(5-1)<br>(8-1)<br>(10-1)<br>(14-2)(16-1)<br>(15-1)<br>(18-2)<br>(19-1)<br>(23-1)<br>(24-1)<br>(24-1)<br>(26-1) | 今年度、特に重点的に実施した項目は以下の通りである。<br>①令和元(平成31)年度から3年間の文部科学省事業として採択された計画に基づき、数理・データサイエンス教育タスクフォースを設置し、文理融合型教育としての数理・データサイエンス教育科目を必修科目として全学展開する検討を進め、まず令和2年度に理系学部を対象とした必修科目を開講し、令和3年度に文系学部を対象とした必修科目を開講する準備を整えた。<br>④大学院での学位プログラム導入に向けて、学位プログラム企画運営委員会を設置し、学位プログラムに対する考え方の共有を進めた。また、本学大学院生が共通して身に付けるべき共通コア科目を含むカリキュラムモデルを提示し、各研究科での学位プログラム化の検討を依頼した。<br>⑤CTE部門は、学生の自主学習促進を目指した『学生主体の教育と指導』のFD研修カリキュラムを作成し、今年度は全て完全オンラインで実施した。また、FD研修を「学習目標の設定方法」、「学習評価の方法」や「学習活動の施策」に関する教育手法を体験できる教育支援コンテンツとし、Streamを活用したCTEアーカイブとして発信した。<br>⑥今年度はコロナ禍により急遽始まったオンライン授業に関して重点的にIR活動を行い、内部質保証を図った。具体的には、7月に教員及び学生に対してオンライン授業に関するアンケートで検証を行い、明らかとなった課題への対応として、教員の支援のためにEdTechサポートオフィス授業実施支援チームを設立するなど、オンライン授業の改善を図った。これらの取組みを受けて、オンライン授業が改善されたかどうかを検証するため、2月に再度アンケートを実施し、オンライン授業が大幅に改善されていることを確認した。<br>⑧令和2年度から新たに導入された高等教育の修学支援制度の運用にあたっては、通常の申請受付に加え、コロナ禍対応として申請期間延長や申請受付の複数回実施、更に、家計急変の学生には、個々の事情に応じて随時申請を受け付けており、学生への制度周知を十分に図り、円滑に運用している。<br>⑫国際バカロレア選抜の全学部定員化とともに、一般選抜(後期日程)の廃止について、10月開催の教育研究評議会で承認され、現在、各学部において具体的な検討を行っており、令和3年度に2年前予告として公表し、令和4年度入試からの変更に向けて、準備中である。 |